

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

平成20年の我が国の漁業・養殖業の生産量は559万2,327tで、前年に比べ12万7,601t(2.2%)減少した。

このうち、海面漁業の漁獲量は437万3,337tで、前年に比べ2万3,489t(0.5%)減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は47万3,845tで、前年に比べ3万2,044t(6.3%)減少、沖合漁業は258万892tで、前年に比べ2万2,732t(0.9%)減少、沿岸漁業は131万8,601tで、前年に比べ3万1,288t(2.4%)増加した。

また、海面養殖業の収穫量は114万6,350tで、前年に比べ9万5,762t(7.7%)減少した。内水面漁業・養殖業の生産量は7万2,639tで、前年に比べ8,351t(10.3%)減少した。

図1 漁業・養殖業生産量の推移

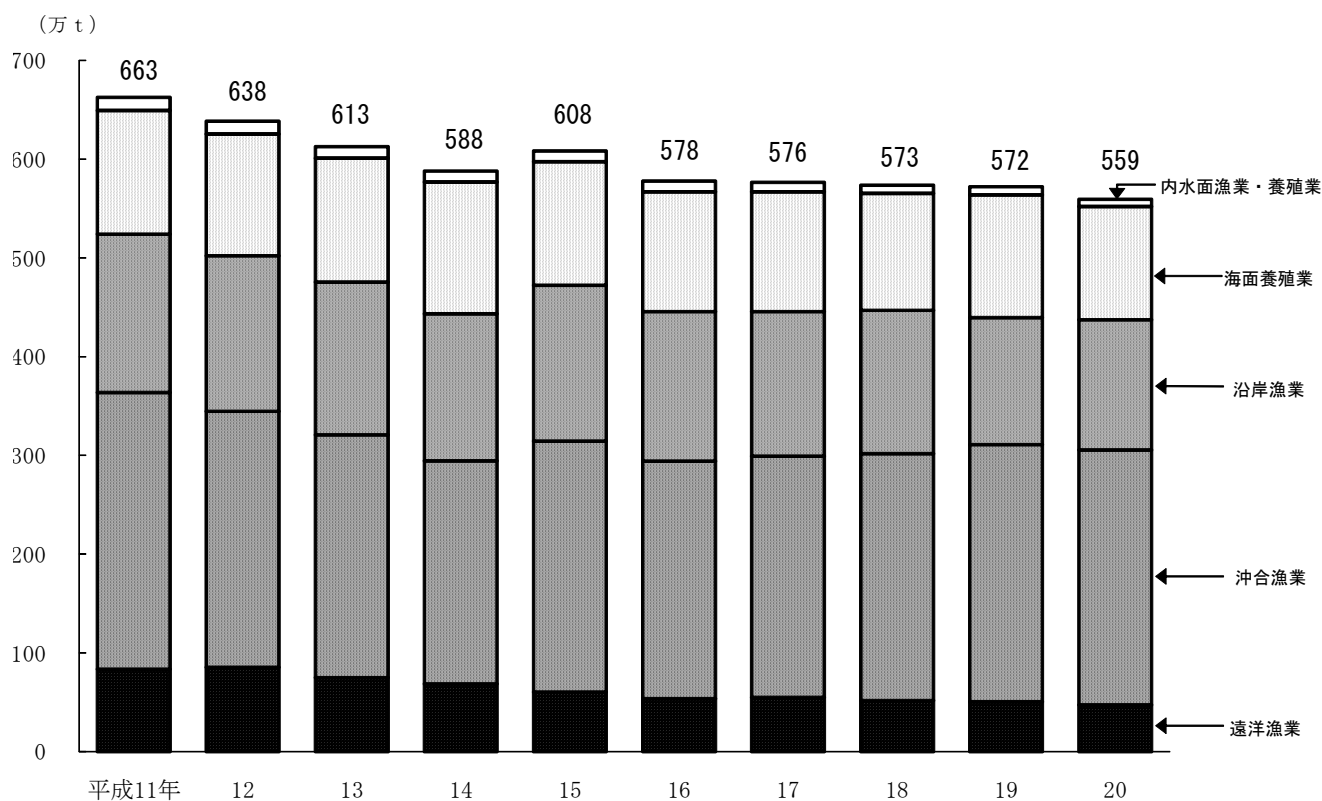


図3 海面漁業部門別漁獲量の推移

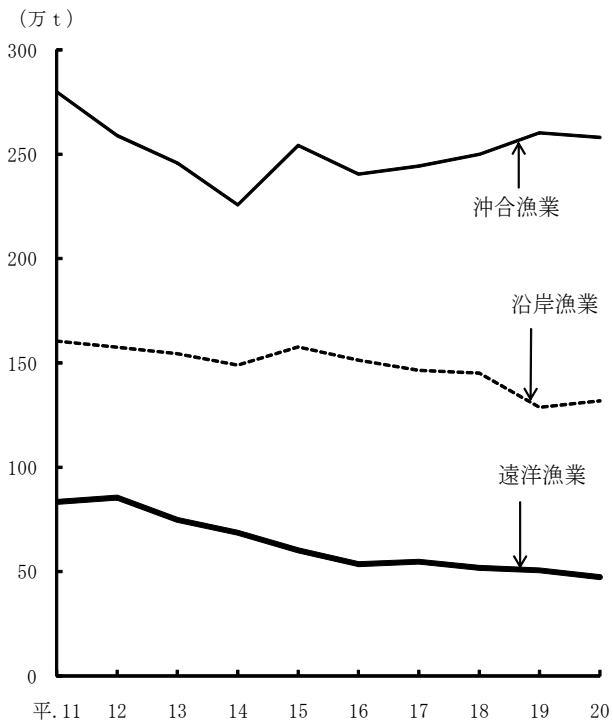


図4 遠洋漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

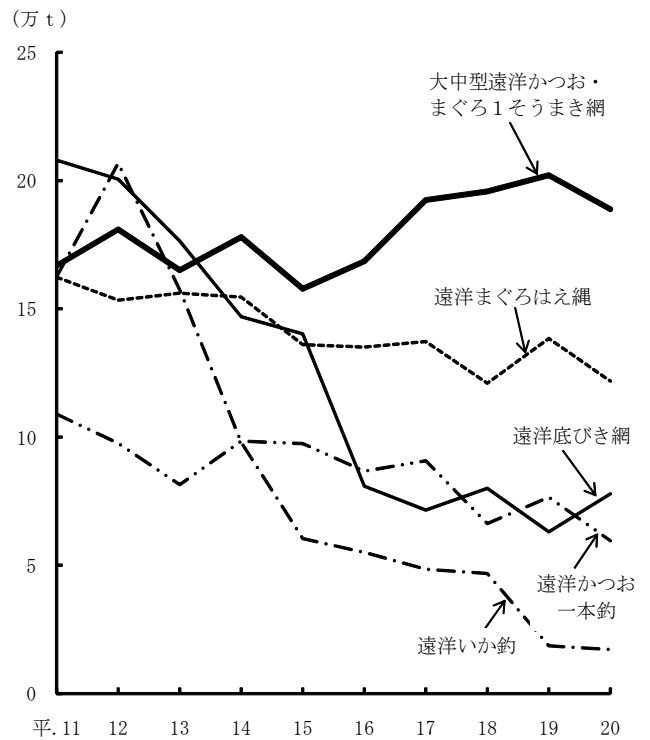


図5 沖合漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

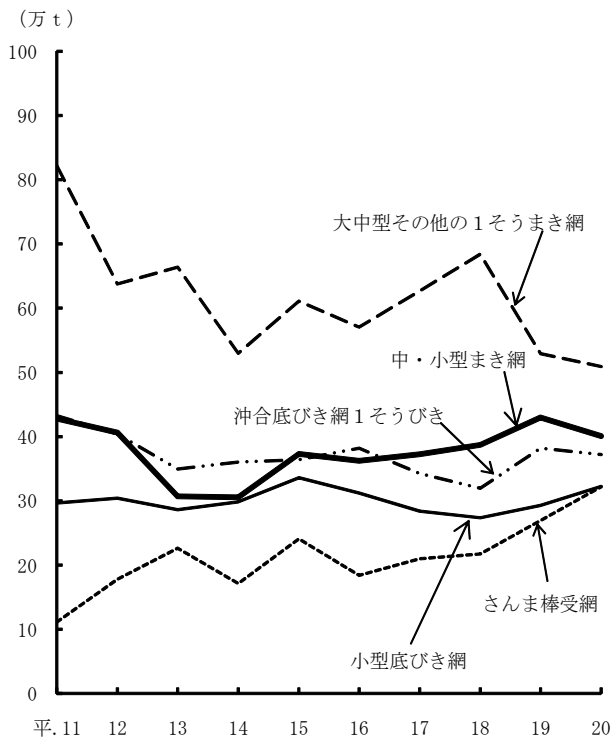
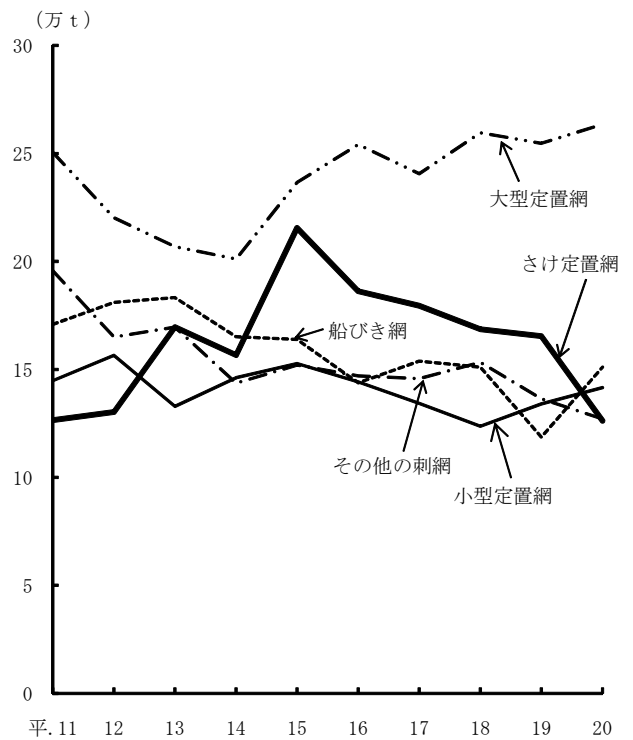


図6 沿岸漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

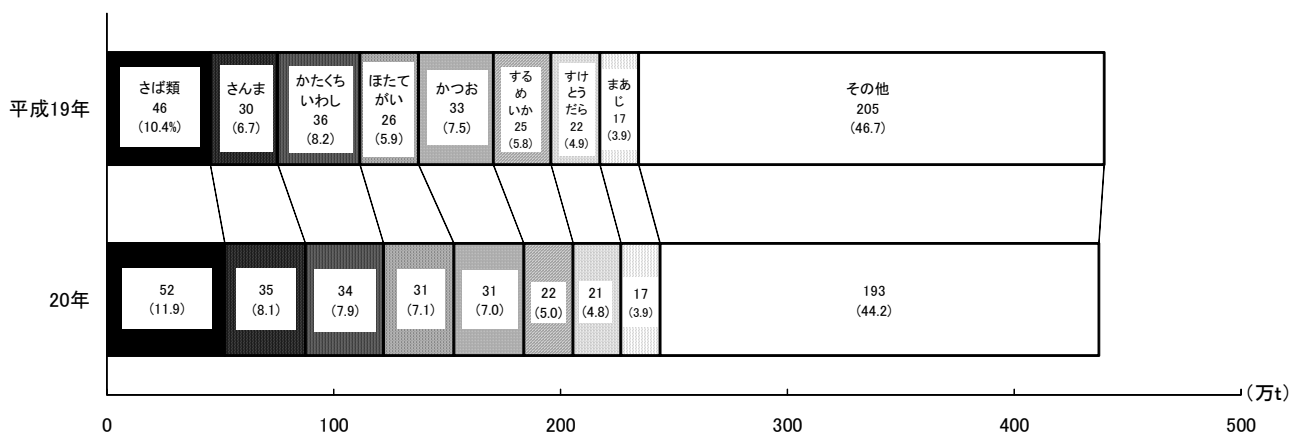


イ 主要魚種別漁獲量

海面漁業の主要魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した魚種は、さば類、さんま、ほたてがい及びまあじであり、減少した魚種はかたくちいわし、かつお、するめいか及びすけとうだらであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、さば類が 11.9 %、さんまが 8.1 %、かたくちいわしが 7.9 %、ほたてがいが 7.1 %、かつおが 7.0 %、するめいかは 5.0 %、すけとうだらが 4.8 %、まあじが 3.9 %となった。

図 7 海面漁業主要魚種別漁獲量



(ア) さば類

漁獲量は 52 万 326 t で、前年に比べ 6 万 3,774 t (14.0 %) 増加した。

これは、その他の釣等による漁獲量が減少したものの、大中型その他の 1 そうまき網、大型定置網、中・小型まき網等による漁獲量が増加したためである。

(イ) さんま

漁獲量は 35 万 4,727 t で、前年に比べ 5 万 8,206 t (19.6 %) 増加した。

これは、さんま棒受網等による漁獲量が増加したためである。

(ウ) かたくちいわし

漁獲量は 34 万 4,989 t で、前年に比べ 1 万 7,471 t (4.8 %) 減少した。

これは、船びき網等による漁獲量が増加したものの、大中型その他の 1 そうまき網、大型定置網等による漁獲量が減少したためである。

(エ) ほたてがい

漁獲量は 31 万 205 t で、前年に比べ 5 万 1,902 t (20.1 %) 増加した。

これは、漁獲量の大部分を占める北海道において、漁獲量が増加したこと等のためである。

(オ) かつお

漁獲量は 30 万 7,832 t で、前年に比べ 2 万 2,481 t (6.8 %) 減少した。

これは、近海かつお一本釣等による漁獲量が増加したものの、遠洋かつお・まぐろまき網、遠洋かつお一本釣等で漁獲量が減少したためである。

(カ) するめいか

漁獲量は21万7,472 tで、前年に比べ3万6,022 t (14.2%) 減少した。

これは、沖合底びき網1そうびき、沿岸いか釣等による漁獲量が減少したためである。

(キ) すけとうだら

漁獲量は21万1,038 tで、前年に比べて5,598 t (2.6%) 減少した。

これは、沖合底びき網1そうびき、沖合底びき網2そうびき等による漁獲量が増加したものの、その他の刺網等が減少したためである。

(ク) まあじ

漁獲量は17万2,322 tで、前年に比べ1,933 t (1.1%) 増加した。

これは、中・小型まき網等による漁獲量が減少したものの、大中型その他の1そうまき網等による漁獲量が増加したためである。

図8 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位1位~4位)

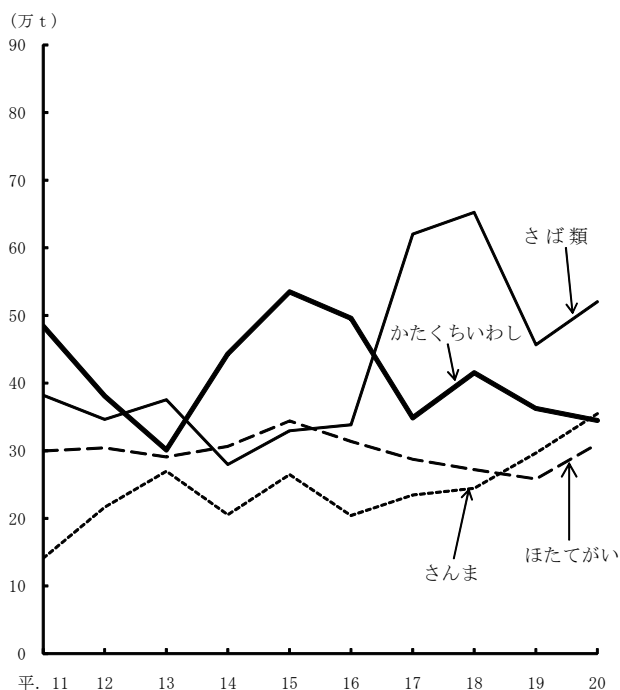
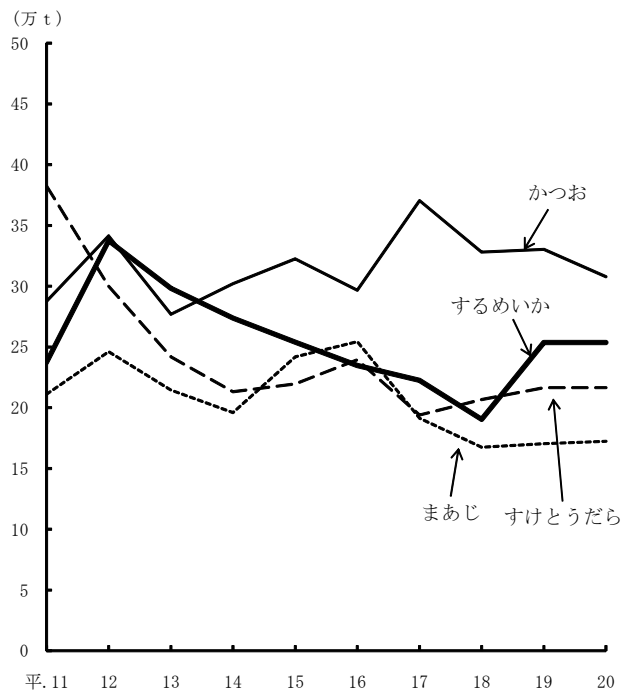


図9 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位5位~8位)



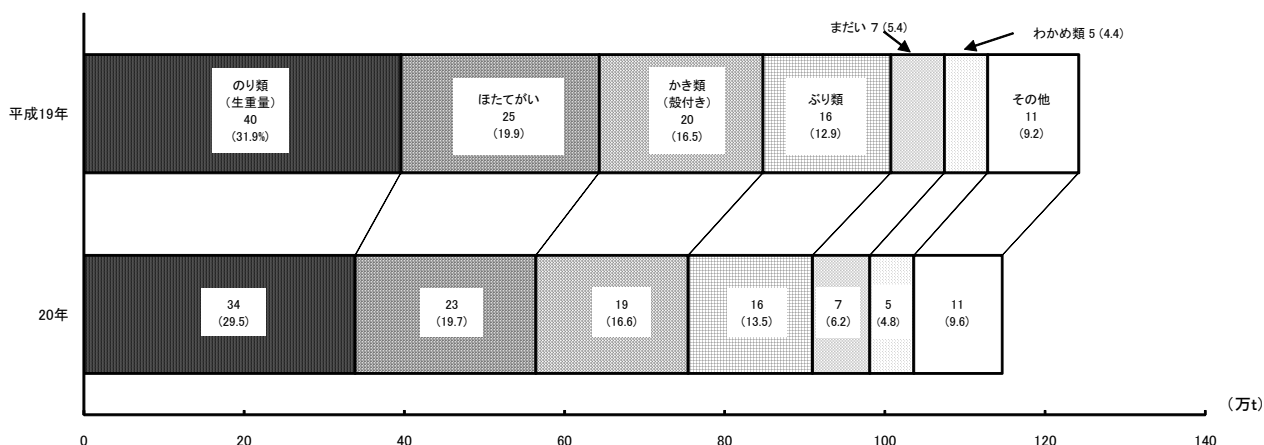
(2) 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は114万6,350 tで、前年に比べ9万5,762 t (7.7%) 減少した。

収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、こんぶ類、まだい等であり、減少した主な魚種は、のり類、ほたてがい、かき類等であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類29.5%、ほたてがい19.7%、かき類(殻付き)16.6%、ぶり類13.5%、まだい6.2%、わかめ類4.8%となった。

図 10 海面養殖業魚種別収穫量



ア 魚類

収穫量は 26 万 132 t で、前年に比べ 1,941 t (0.7%) 減少した。

(ア) ぶり類

収穫量は 15 万 5,108 t で、前年に比べ 4,641 t (2.9%) 減少した。

これは、鹿児島県等で減少したためである。

(イ) まだい

収穫量は 7 万 1,588 t で、前年に比べ 4,925 t (7.4%) 増加した。

これは、愛媛県、長崎県等で増加したためである。

(ウ) ぎんざけ

収穫量は 1 万 2,809 t で、前年に比べ 758 t (5.6%) 減少した。

イ 貝類

収穫量は 41 万 7,290 t で、前年に比べ 3 万 6,723 t (8.1%) 減少した。

(ア) ほたてがい

収穫量は 22 万 5,607 t で、前年に比べ 2 万 1,909 t (8.9%) 減少した。

これは、青森県、北海道等で減少したためである。

(イ) かき類 (殻付き)

収穫量は 19 万 344 t で、前年に比べ 1 万 4,130 t (6.9%) 減少した。

これは、広島県、岡山県等で減少したためである。

図 11 海面養殖業魚種別収穫量の推移（魚類）

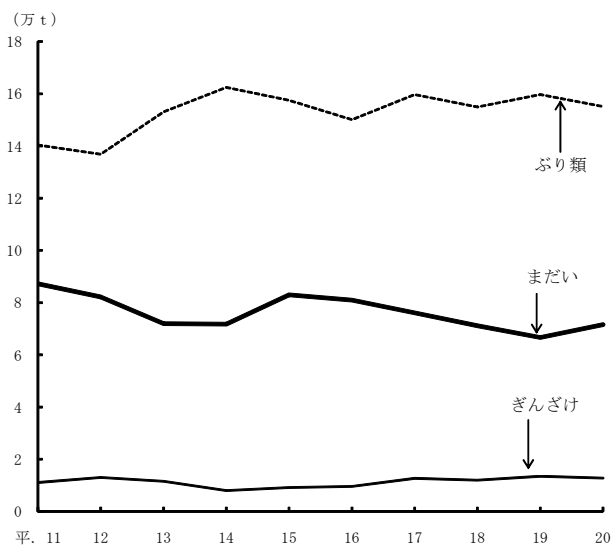
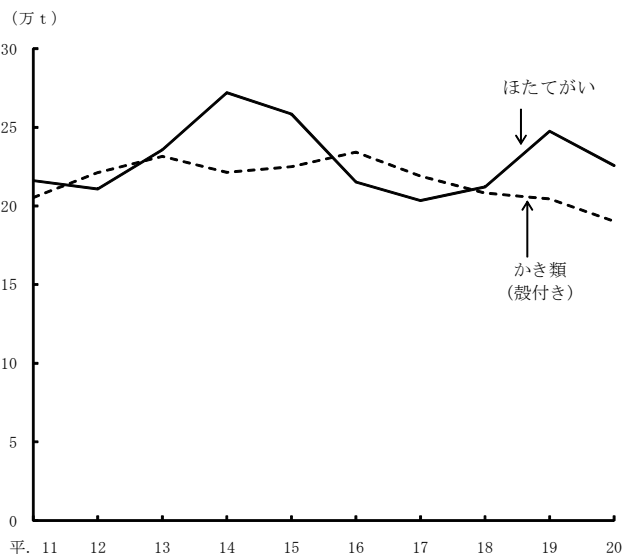


図 12 海面養殖業魚種別収穫量の推移（貝類）



ウ 海藻類

収穫量は45万6,337 tで、前年に比べ5万7,628 t（11.2%）減少した。

(ア) のり類（生重量）

収穫量は33万8,523 tで、前年に比べ5万7,254 t（14.5%）減少した。

これは、兵庫県、香川県等で減少したためである。

(イ) わかめ類

収穫量は5万4,909 tで、前年に比べ660 t（1.2%）増加した。

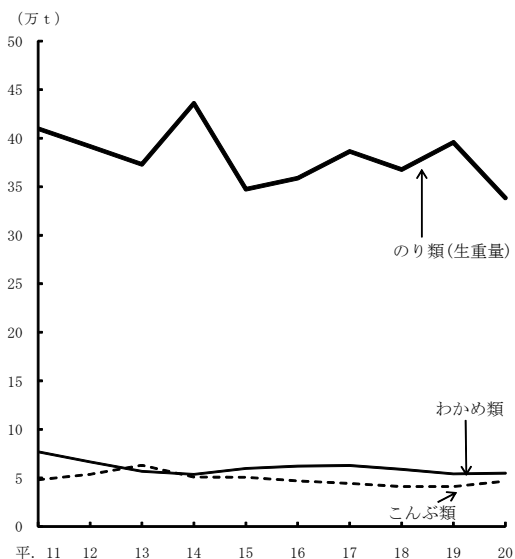
これは、岩手県等で減少したものの、宮城県等で増加したためである。

(ウ) こんぶ類

収穫量は4万6,937 tで、前年に比べ5,581 t（13.5%）増加した。

これは、北海道、岩手県等で増加したためである。

図 13 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



(3) 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要 106 河川及び 24 湖沼）の漁獲量は 3 万 2,627 t で、前年に比べ 6,411 t（16.4％）減少した。

ア 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は 1 万 7,174 t で、前年に比べ 3,977 t（18.8％）減少した。

また、湖沼における漁獲量は 1 万 5,453 t で、前年に比べ 2,434 t（13.6％）減少した。

イ 主要魚種別漁獲量

(ア) しじみ

漁獲量は 9,831 t で、前年に比べ 1,111 t（10.2％）減少した。

これは、島根県、青森県等で減少したためである。

(イ) さけ類

漁獲量は 9,525 t で、前年に比べ 3,999 t（29.6％）減少した。

これは、全体の 5 割強を占める北海道をはじめ岩手県等でも減少したためである。

(ウ) あゆ

漁獲量は 3,438 t で、前年に比べ 154 t（4.7％）増加した。

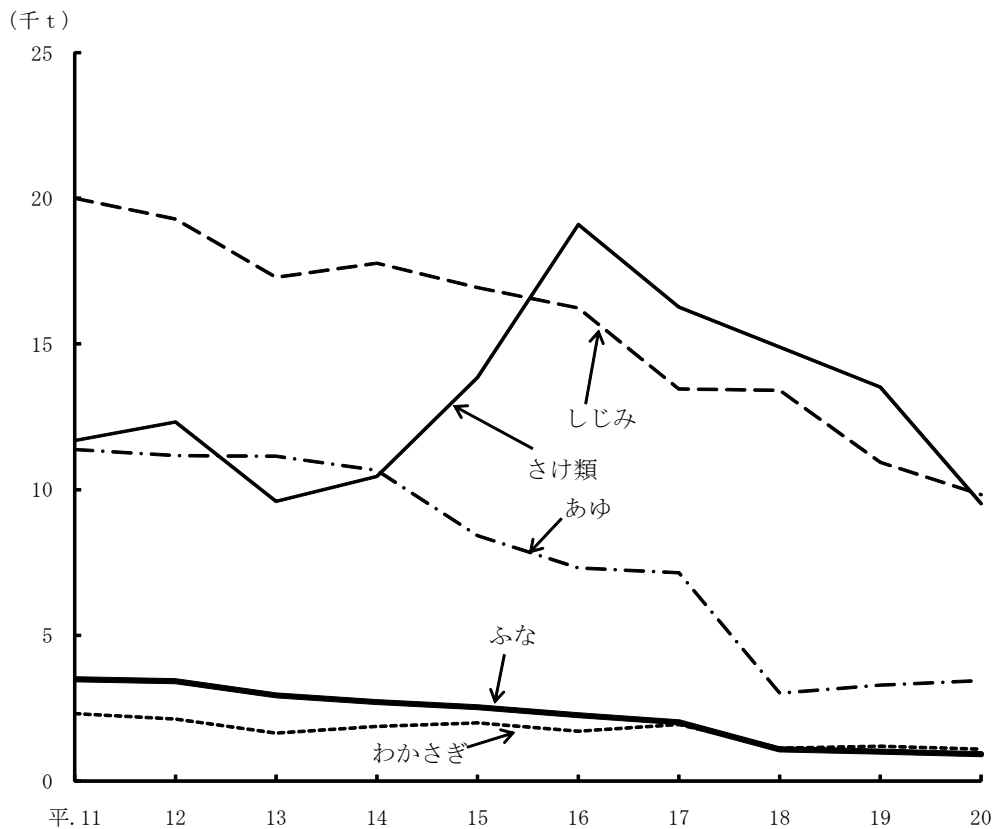
これは、岐阜県、神奈川県等で増加したためである。

(エ) わかさぎ

漁獲量は 1,096 t で、前年に比べ 98 t（8.2％）減少した。

これは、茨城県、北海道等で減少したためである。

図 14 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



(4) 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は4万12 tで、前年に比べ1,941 t (4.6%) 減少した。

ア うなぎ

収穫量は2万952 tで、前年に比べ1,289 t (5.8%) 減少した。

これは、愛知県、宮崎県等で減少したためである。

イ にじます

収穫量は6,825 tで、前年に比べ494 t (6.7%) 減少した。

これは、静岡県、岐阜県等で減少したためである。

ウ あゆ

収穫量は5,940 tで、前年に比べ133 t (2.3%) 増加した。

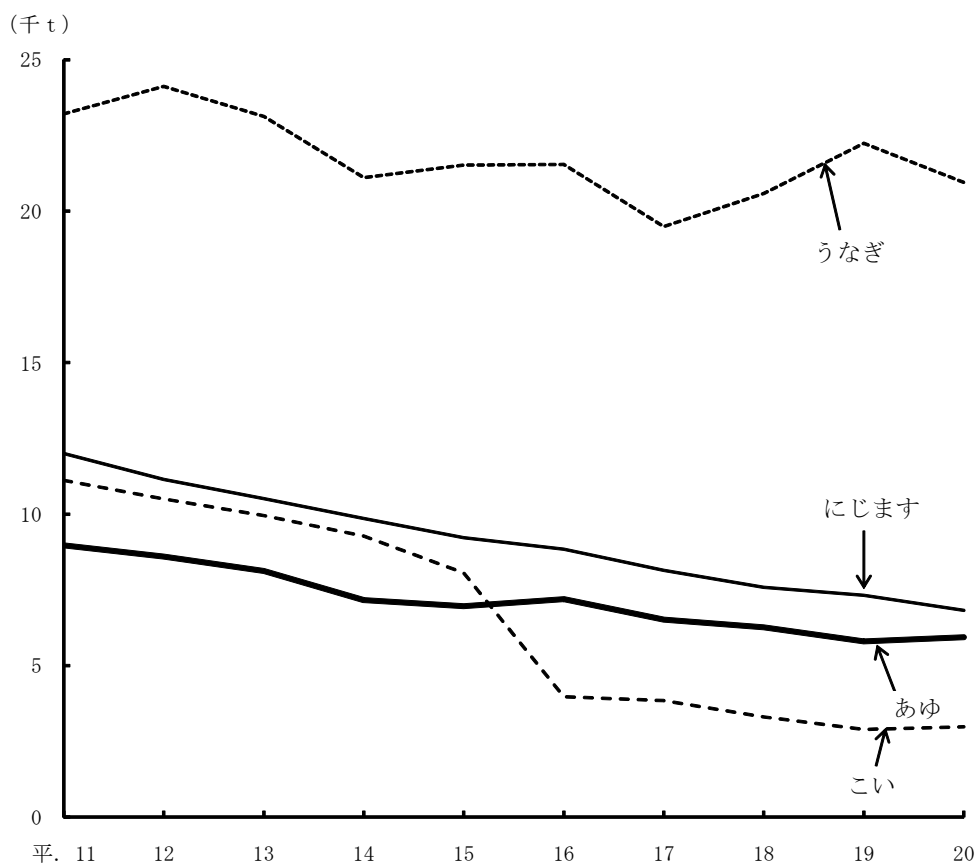
これは、和歌山県、滋賀県等で増加したためである。

エ こい

収穫量は2,981 tで、前年に比べ88 t (3.0%) 増加した。

これは、茨城県、福島県等で増加したためである。

図 15 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移



2 漁業・養殖業生産額

平成 20 年の漁業生産額は 1 兆 6, 279 億円で、前年に比べ 1.5 % 減少した。

図 16 漁業生産額の構成比

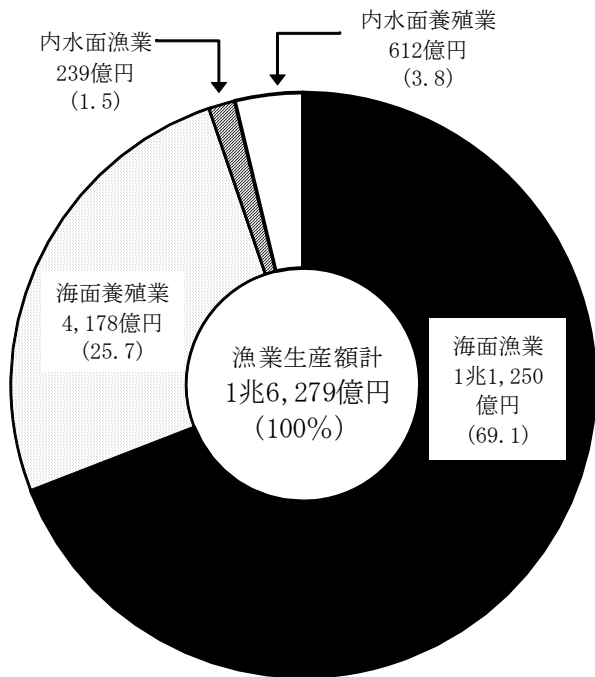
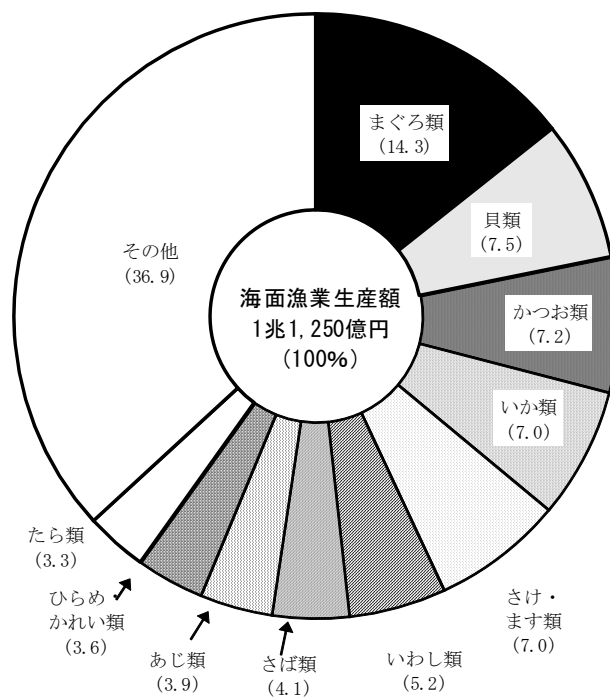


図 17 海面漁業生産額の構成比



(1) 海面漁業

海面漁業の生産額は 1 兆 1, 250 億円で、前年に比べ 0.2 % 減少した。

魚類の生産額は 8, 122 億円で、前年に比べ 2.2 % 増加した。

ア 生産額が増加した主な魚種

(ア) くろまぐろ

生産額は 386 億円で、漁獲量が増加したことから前年に比べ 36.3 % 増加した。

(イ) さば類

生産額は 464 億円で、漁獲量が増加したことに加え、価格も上昇したことから前年に比べ 18.5 % 増加した。

(ウ) かつお類

生産額は 815 億円で、漁獲量は減少したものの、価格が上昇したことから前年に比べ 6.7 % 増加した。

イ 生産額が減少した主な魚種

(ア) めばち

生産額は 596 億円で、価格は上昇したものの、漁獲量が減少したことから前年に比べ 12.3 % 減少した。

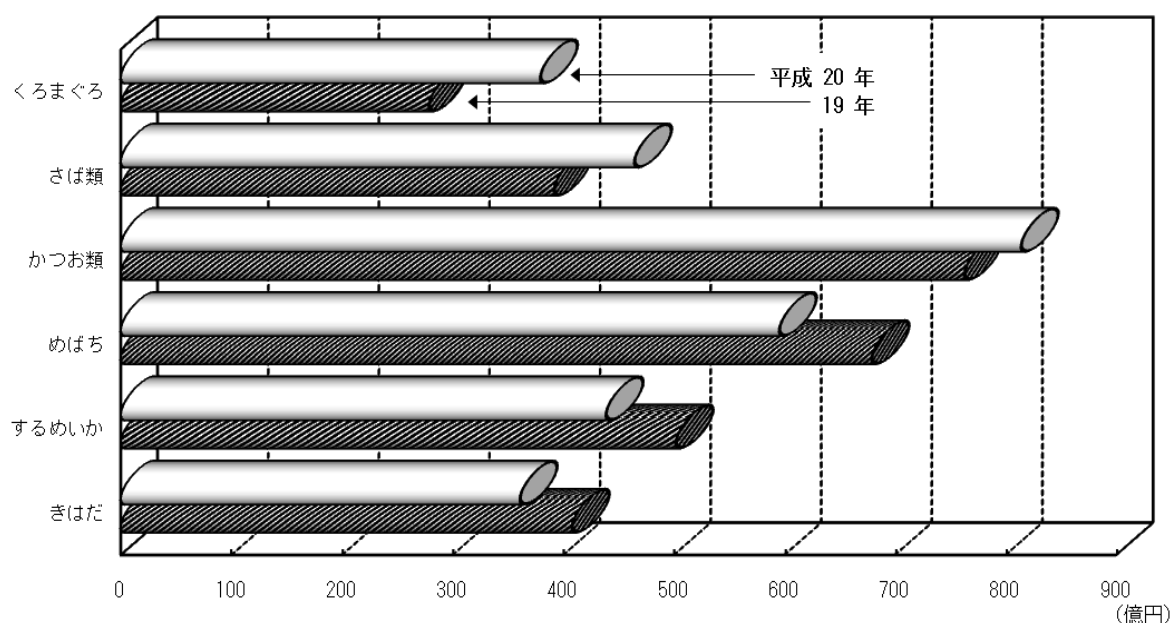
(イ) するめいか

生産額は 439 億円で、漁獲量が減少したことから前年に比べ 12.6 % 減少した。

(ウ) きはだ

生産額は 361 億円で、漁獲量が減少したことに加え、価格も低下したことから前年に比べ 11.5 % 減少した。

図 18 海面漁業の主要魚種別生産額



(2) 海面養殖業

海面養殖業の生産額は 4,178 億円で、前年に比べ 6.9 % 減少した。

魚類養殖の生産額は 2,086 億円で、前年に比べ 2.4 % 減少した。

ア 生産額が増加した主な魚種

(ア) わかめ類

生産額は 102 億円で、価格が上昇したことから前年に比べ 38.3 % 増加した。

(イ) ぶり類

生産額は 1,161 億円で、価格が上昇したことから前年に比べ 2.3 % 増加した。

イ 生産額が減少した主な魚種

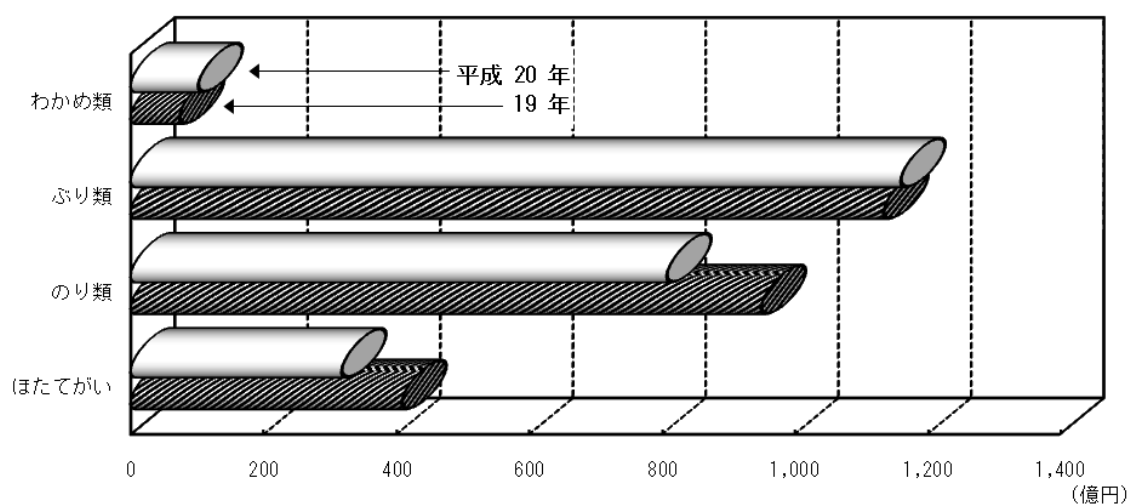
(ア) のり類

生産額は 808 億円で、収穫量が減少したことから前年に比べ 15.0 % 減少した。

(イ) ほたてがい

生産額は 318 億円で、収穫量が減少したことに加え、価格も低下したことから前年に比べ 22.2 % 減少した。

図 19 海面養殖業の主要魚種別生産額



(3) 内水面漁業・養殖業

内水面漁業・養殖業の生産額は 851 億円となり、前年に比べ 10.1 % 増加した。

ア 内水面漁業の生産額は 239 億円で、前年に比べ 5.6 % 増加した。

これは、あゆの生産額が 93 億円で、漁獲量が増加したことに加え、価格も上昇したことから、前年に比べ 19.4 % 増加したためである。

イ 内水面養殖業の生産額は 612 億円で、前年に比べ 11.9 % 増加した。

これは、うなぎの生産額が 388 億円で、収穫量は減少したものの、価格が上昇したことから、前年に比べ 22.6 % 増加したためである。

図 20 内水面漁業生産額の構成比

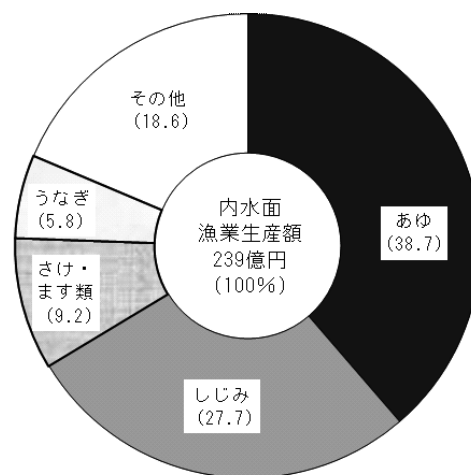


図 21 内水面漁業及び養殖業の主要魚種別生産額

